

# 認定病院の 改善事例紹介 シリーズ

Improve

Vol.11

一般病院 1

## 紹介事例

社会医療法人 博進会

南部病院

まなびあい、たすけあう～病院内から地域へ～

医療を見つめる第三者の目。

それが病院機能評価です。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
Japan Council for Quality Health Care

<https://jcqhc.or.jp/>

## 日本医療機能評価機構

日本医療機能評価機構は、国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とし、中立的・科学的な第三者機関として医療の質の向上と信頼できる医療の確保に関する事業を行う公益財団法人です。



病院機能評価は、患者さんが安心して安全な医療を受けることができるように「病院の改善」を支援する仕組みです。サーベイヤーと呼ばれる専門調査者が病院を訪問し、病院の取り組みを評価します。病院外部の第三者機関による評価を上手く活用することで、これまで院内では気付くことができなかった課題や強みなどを明らかにすることができます。

評価の結果、一定の水準を満たしていれば「認定病院」となります。評価を受けることで明らかになった課題を改善し、認定を更新していくことで、継続的な質改善活動を行うことができます。

評価は、病院の特性に応じた6つの機能ごとに行われます。



第11号では『一般病院1』版の病院機能評価を活用して改善に取り組んだ事例を紹介します。



# まなびあい、たすけあう～病院内から地域へ～

## 社会医療法人博進会 南部病院の場合…

病院内で部署の垣根なくボーダレスで学びあい、助けあう文化を醸成することで、地域の医療機関としての役割を発揮する――常に「その時代に求められる医療の常識」を意識した南部病院の取り組みを紹介します。



この病院で理事長に就任するまで、職員の教育について考えたこともありませんでしたが、実際に職員の頑張りを目の当たりにすると、勉強すればするほど知識・能力が付き、リーダーシップを発揮してくれる、と感じています。その力を活かし、病院と地域との更なる連携を通して、より住みやすい地域づくりに貢献したいと思っています。(小笠原和人理事長)

### 全員参加の勉強会が育む組織の風土 ～思いやり・互いを知ること～

取材に訪問した日の13時、病院のほぼ全職員が参加する院内勉強会が開催された。この日の発表者は看護助手としてこの南部病院に入職し、その後サプライ室に勤務し、今春、滅菌技士の資格を取得した職員であった。各部署から器具を回収し、滅菌する手順・手法や、再び各部署へ戻す普段の職務のフロー、各部署の職員にお願いしたいことなど、15分の発表であった。



「1ヵ月半前、発表の指名があり、教育研修委員会の職員に相談しながら準備をしました。発表をきっかけに自身の業務を見直すことができました。今後は現状にあったマニュアルなどを作っていきたいです」(サプライ室 東平様)

このような、全職員が学び、共有・改善を行う風土は、小笠原外科胃腸科医院として開業した当初から時間をかけて培われてきたものの、と多くの職員が口をそろえて語る。開設当初から「まず診る、そして病態を把握して必要なら専門医に送る」という地域での役割を果たすため、地域医療に貢献してきたが、「都会では当たり前に行えることが、この病院ではできないことがある」(小笠原博会長)と感じていた。確かに多忙であったが、職員を積極的に外部の勉強会へ参加させ、海外研修も実施した。昭和63年から毎年行っている学会発表もその一環だ。職種を問わず発表するほか、発表者以外にも毎年数名が聴講として参加している。学会参加者は、聴講した内容を院内の報告会で発表し、得た情報を共有する。自分の職務に対する自信やリーダーシップの醸成につながる。平成29年度は、全日本病院学会で3演題発表した。病院機能評価も、普段行っている活動がスタンダードとどれだけ差

があるかを確認するため、1996年の運用調査版から参加している。

「職員には日本の医療のスタンダードのレベルを知ってもらいたかった。『できていないことは取り入れる』、逆に『この取り組みはうちの病院は優れている』ということを感じてもらうため、機能評価や学会と通じてとにかく外の世界を知ってほしかったです」(小笠原博会長)



南部病院の風土作りは入職時の教育プログラムから徹底している。研修施設を安比高原に建設し、日常の業務と切り離して研修に集中できる環境を作った。入職後、年次にあわせ体系的に行われる研修では、「限られた予算でバスツアーを企画する」「新しいコンビニの弁当を作る」といった医療以外のテーマについて、職種混合のグループで取り組む。医療以外のテーマであれば、「医療職とそれ以外」という垣根がなくなるからだ。座学だけではなく、楽しく学んで、チームで想像し、お互いの意見を聞きあい、発表すること。この「共感」を現場に持ち帰ることで、互いに学びあい、思いやる風土が生まれるのだという。



「職員一人ひとりが他の職種と関わり仕事をする中で、どういうことをすればよいか、次の人のことを思いやって仕事ができているか。これが実践できると、いざというときにスムーズに助けに行けるチームができると思います。」(小原院長)

### 毎月開催の勉強会の様子



「勉強会は月1回行い、教育研修委員会の委員は、発表のテーマの妥当性、説明の分かりやすさや資料の見やすさなどを評価し、コメントをフィードバックしています。1年間の発表をまとめた冊子を作成し、年に1回表彰を行います」(教育研修委員会 梅舘様)



### 「地域に求められる存在であることに、自分たちのここに存在する意味がある」

院内の体制は、外部から多くの学びや刺激を取り入れること、お互いに学びあい、思いやる文化を醸成することで確立されてきた。3年前に就任した、小笠原和人理事長もそう感じている。

しかし、今後20～30年の地域の状況を考えると、人口が減少し、患者も働き手も少なくなる。病院がこれから対峙する大きな障壁だ。看護学校等を対象とした奨学金制度を導入しているが、職員の確保は容易ではない。それを乗り越えるためにも、「地域連携」が重要だと理事長は考えている。周辺病院とは、機能分化や連携に留まらず、当直や研修・懇親会などの交流も行ってきた。

「私たちがこのような規模の病院ががんばらないと、三次救急を受け入れている病院が疲弊してしまう。地域全体の医療を考えて、自分たちの役割を果たさなければならないと思っています。」(佐々木看護部部長)



「行政や介護、教育、保育等の機関との本当の意味で連携も今後は必要である」とも理事長は話す。「介護離職を少なくし、病児保育などを通して、より長くこの地域で安心して生活できるような存在を目指しています。」地域の病院が中心となり、安心して医療が受けられ、安心して仕事ができる環境を作り、多くの人たちが集まってくる。「本当の意味ではまだまだ」と言うが、「お互いの仕事に共感し、相手を思いやる」文化を醸成してきた南部病院だからこそ、今後の地域づくりに貢献できるのである。

### Column 今とこれからを結ぶ～出前勉強会・子ども職場参観日～

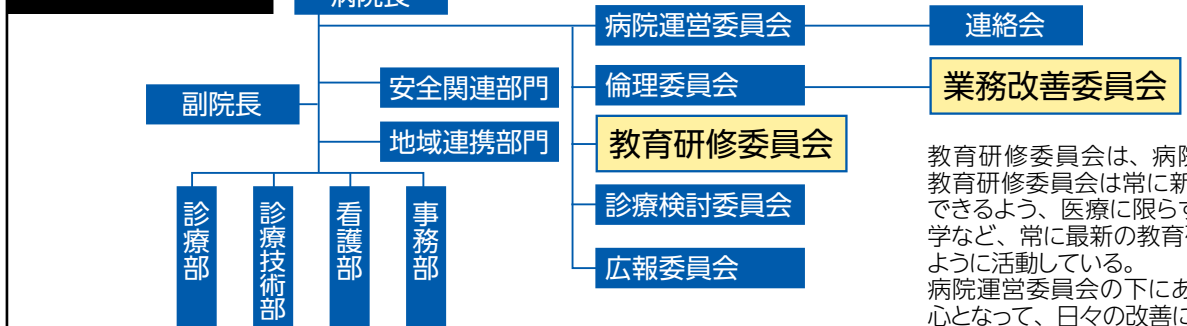
南部病院では、地元の中高生を対象にした職場体験を始め、高校に出向いての「出前授業」、さらには職員のお子さんとそのお友達を中心とした「子ども職場参観日」を実施し、これからもこの地域で、病院で働きたい、という未来の芽を育てている。

特に、「子ども職場参観日」では、親子で出勤し、職場見学・体験を通して、病院で働く姿を見せけている。職員からは「子どもにどのような仕事をしているか、見せることができてよかった」、お子さんからは「かんじゃさんが安心して『ありがとう』というきもちでたいいんできるように、いろいろなくふうをしていると、きがつかしました」という感想を得ている。

このような取り組みが評価され、2014年に青森県教育委員会より「おもひきりキャリア教育応援企業」に選ばれ、表彰を受けた。自分たちの思いを伝え、次世代の子どもたちが希望を持ってこの町で生活できるよう、継続的に取り組んでいる。



### 南部病院 組織図



教育研修委員会は、病院長直轄の組織である。教育研修委員会は常に新しい情報をアップデートできるよう、医療に限らず、多くの企業研修の見学など、常に最新の教育研修を発案・提供できるように活動している。病院運営委員会の下にある業務改善委員会が中心となって、日々の改善に取り組んでいる。



# 病院機能評価受審の効果

常に最新の状況をアップデートするために継続的に取り組む南部病院。  
病院機能評価も標準的な取り組みと比較するくものさし>に活用しています。

## 「外部の情報」を取り入れるために 運用調査版から情報収集

同院の前身は小笠原外科胃腸科医院。スタッフは13人でスタートした。地域の要請にこたえるために規模を拡大し、2年後には病院となり、スタッフも増えていった。その過程で一番問題となるのは組織作りだ。

少人数のときであれば、問題が起きたとしてもすぐ、臨機応変に対応できる。しかし、人数が増えてくるとそう簡単にはいかない。もともと、医療従事者は、さまざまな教育機関や医療機関で経験を経て病院に集まることが多いため、すぐに協働、というのは難しい。その中で利用したのが病院機能評価だ。日本医療機能評価機構が病院機能評価を「運用調査版（事業開始前の試行）」として開始したときから情報収集を行い、外部から組織評価を受けることで、病院の組織作りに役立ててきた。「東京で説明会に参加したときは、大規模で有名な病院が多く、正直『場違いだったかな』と感じてしまいました」と、小笠原博会長は話す。

## 理念の明文化から 体制の確立へ

病院機能評価の初回の認定は2000年4月。これは青森県の民間病院では初めての認定であった。この



ときに理念が明文化され、組織全体の考え方が明確になった。機能評価の準備を通し、医療は標準化される。職員の向かうべき道が、受審を通して明確になり、一つの目指すべき道ができた。組織が大きくなり、背景の異なる職員が集まったとしても、協働して病院を動かすことができる。このことが「受審して良かったこと」と佐々木看護部長は語る。

## 継続した受審 ～今の標準を測る くものさし>として～

病院機能評価について感想を求めると、「正直なところ、経営層と現場で温度差があります」と小笠原和人事長は語った。「しかし、現場のアップデート状況を経営層が確認すること、現場が今の取り組みを見直すという意味では、大きな意義があると思います」

時代の流れと共に、医療機関に求められるものは少しずつ変化している。5年前に標準だったものが今も

標準かどうかを、病院だけで判断することは難しい。「病院機能評価は、現在の医療の質・社会のニーズ・患者が求めるものを測るくものさし>と考えています。継続的な受審は、くものさし>と病院の活動を比較する良いチャンスです。」最後に佐々木看護部長からいただいた言葉である。

# 編集後記

病院の理念や理想があり、その理想に向かって職員が一丸となって進んでいく。そして、進んでいくために、委員会や上層部がサポートしていく……。南部病院では自己研鑽や地域への貢献を通して組織・文化を創っているということを、今回の取材でトップから現場の皆様にお話を聴く中で感じたことです。

そして、取り組みを常に世の中のスタンダードと比較すること、情報をアップデートし続けることは、非常に負担ながらも、病院を確実に理想に向かって進める原動力になっていると思います。評価機構も、常に日本の医療のスタンダードがあらゆる面で提供できるよう、アップデートを続けていかなければならない責任も感じました。

(二宮 史彦)

# バックナンバーのご案内

バックナンバーは評価機構のホームページよりご覧いただけます。  
<https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/tool/improve/>



スマートフォン・タブレットはこちらから



- Improve Vol.10 リハビリテーション病院（2017年7月発行）  
《紹介事例》特定医療法人 自由会 岡山光南病院  
―患者さんに「安心」を届けるトータルマネジメント―
- Improve Vol.9 一般病院2（2017年3月発行）  
《紹介事例》彦根市立病院  
―病院主導のマニュアル活用で地域包括ケア構築―
- Improve Vol.8 精神科病院（2017年1月発行）  
《紹介事例》医療法人成精会 刈谷病院  
―ゆたかな心で地域とつながり、癒やす。寄り添う。守る。育む。―
- Improve Vol.7 慢性期病院（2016年10月発行）  
《紹介事例》医療法人社団 廣徳会 岡部病院  
―地域に根ざした患者中心の医療を実現する院内教育―
- Improve Vol.6 一般病院1（2016年5月発行）  
《紹介事例》医療法人清仁会 洛西ニュータウン病院  
―退院後も続く、患者との絆を結ぶチーム医療―

# 病院概要

平成29年11月1日現在

|         |                                                                      |
|---------|----------------------------------------------------------------------|
| 病 院 名   | 社会医療法人博進会 南部病院                                                       |
| 理 事 長   | 小笠原 和人                                                               |
| 所 在 地   | 〒039-0105 青森県三戸郡南部町沖田面字千刈52-2<br>TEL 0179-34-3131 / FAX 0179-34-3130 |
| 開 設     | 昭和50年4月                                                              |
| 病 床 数   | 60床                                                                  |
| 標 榜 科 目 | 外科 内科 眼科 整形外科 麻酔科 リハビリテーション科                                         |

## 日本医療機能評価機構 認定病院の改善事例紹介シリーズ Vol.11 一般病院1

2018年1月発行

発行：公益財団法人 日本医療機能評価機構  
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1丁目4番17号 東洋ビル  
TEL：03-5217-2320（代）／03-5217-2326（評価事業推進部）  
<https://jqhc.or.jp>

